

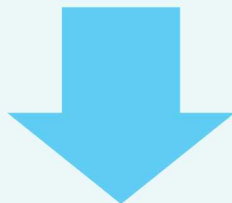
中野駅駅前広場デザイン等整備方針（素案）

令和 2 年 10 月 29 日

中 野 区

まちづくり推進部中野駅周辺まちづくり課

中野駅周辺で市街地開発が活発化し、
駅前広場の新規整備・再整備を含んだ開発が計画される。



今後、各駅前広場を計画、設計する際の方針を
定めることで適切な整備を誘導する必要がある。

◆これまで、4回の検討会を開催し、整備方針の素案を作成しました。

R1年度

第1回検討会
(令和元年10月17日)

◆内容 将来のまちの姿についての共有

第2回検討会
(令和元年11月22日)

◆内容 中野駅周辺の空間形成の考えかたについて検討

第3回検討会
(令和2年3月24日)

◆内容 デザイン等整備方針について検討

第4回検討会
(令和2年9月2日)

◆内容 デザイン等整備方針(素案)について検討

R2年度

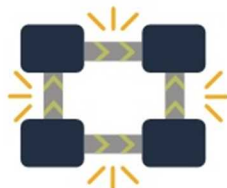
区民意見交換会
(令和2年10月29日:本日)

中野駅周辺の回遊性を高め にぎわいと交流を生みだす

中野駅周辺の「まち」をそれぞれの駅前広場と広場を結ぶ動線につなぎ、特性ある4つの「まち」を交わせ、新たな人の流動と活動をうながすことで、中野駅周辺全体の魅力を高めます。

● にぎわいと交流を生みだす動線整備のコンセプト

① つながる



地形による高低差がある駅周辺の4つの「まち」を、複数の歩行者ネットワークで立体的につなぎ、誰でも歩きやすく、わかりやすい歩行者動線整備を行い、歩いて楽しいまちを実現します。

② まじわる



駅周辺の4つの「まち」は、誰でも歩きやすく、わかりやすい歩行者動線がつながることで、中野に住む人や中野を訪れた人の行き来が活発となり、まちの特性が交わります。

③ たかまる



特性が交わる4つの「まち」は、他のまちの特性に触れることで、新たな価値を生みだし、駅周辺に加え中野区全体の魅力がさらに高まり、持続可能な中野のまちを形成します。

●空間整備の基本的な考え方

駅前広場の空間整備にあたっては、3つのコンセプトを踏まえ、以下の考え方で整備します。

■駅前広場の整備について

- ・4つの広場があるそれぞれのまちの特性を象徴するようなデザインを取り入れつつも、中野駅周辺全体で統一感のあるデザインとします。
- ・既存の周辺の施設、樹木、舗装などと調和を図り、歴史や文化を継承します。

■駅前広場を結ぶ動線の整備について

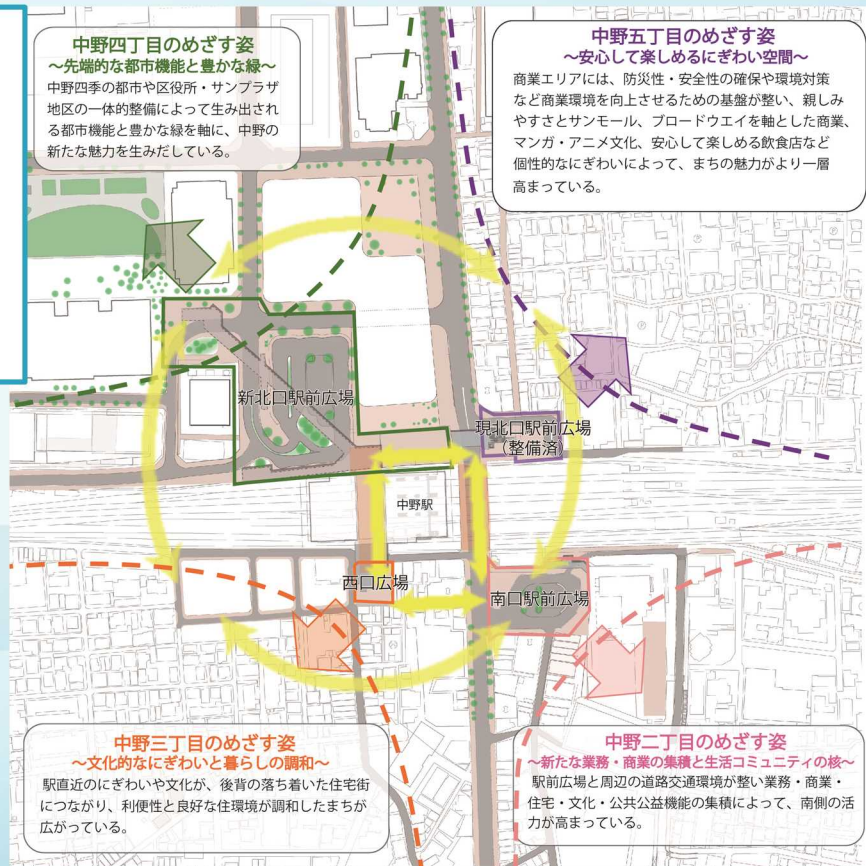
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、誰でも安全で快適な歩行者空間を整備します。
- ・施設整備にあたっては、誰でも利用しやすい施設配置とします。
- ・誰でもわかりやすい標識・サインを整備します。

■駅前広場につながる空間について

- ・公民が協力し、公共が整備する「駅前広場」と民間が整備する「駅前広場につながる空間」が、一体的なデザインの空間となるよう誘導します。

中野駅周辺の4つの「まち」のめざす姿

各駅前広場と広場を結ぶ動線は、
「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer. 3」
に示す「駅周辺各地区の目指す姿」に基づき整備を行い、中野駅周辺全体の魅力を高めます。



- 新北口駅前広場**

「新北口駅周辺の交通をつなぎ、歩行者の円滑な回遊とにぎわいを創出す空間」

 - ・公共公益性の向上につながる空間構成とする。
 - ・ユニバーサルデザインの歩行者ネットワークを形成する。
 - ・周辺地区との関係性を踏まえた広場空間整備とする。
 - 中野四季の都市ゲート広場**

「中野四季の都市の豊かな緑が顔を出すエントランス」

 - ・南北通路からつながるデッキが中野四季の都市の緑と一体となった、緑豊かなエントランス空間とする。
 - 新北口歩行者デッキ**

「南北通路と中野四季の都市をつなぎ中野駅前の新たなシンボルとなる歩行者空間」

 - ・歩行者デッキは眺望を確保し、圧迫感を与えないような空間とする。
 - 新北口交通広場**

「円滑に乗換えのできる開放感のある交通結節空間」

 - ・区内最大の交通結節点として、各交通手段を円滑につなぐ交通広場とする。
 - 新北口歩行者広場**

「まちのエントランスとしての出会いの空間」

 - ・中野五丁目のにぎわいに中野四丁目の新たなにぎわいをつなぎ、発展させる、駅北側の新たな顔となる広場とする。
 - ・公共の歩行者広場と民間の出会いの広場が一体となり、多くの人が行き交う、にぎわいのある空間を目指す。
 - 南北通路**

「中野四丁目と中野三丁目をつなぐ新たな南北動線」

 - ・橋上駅舎、駅ビルと一体となり、新北口・西口へとつながる、利便性の高いにぎわいのある空間とする。
 - 西口広場**

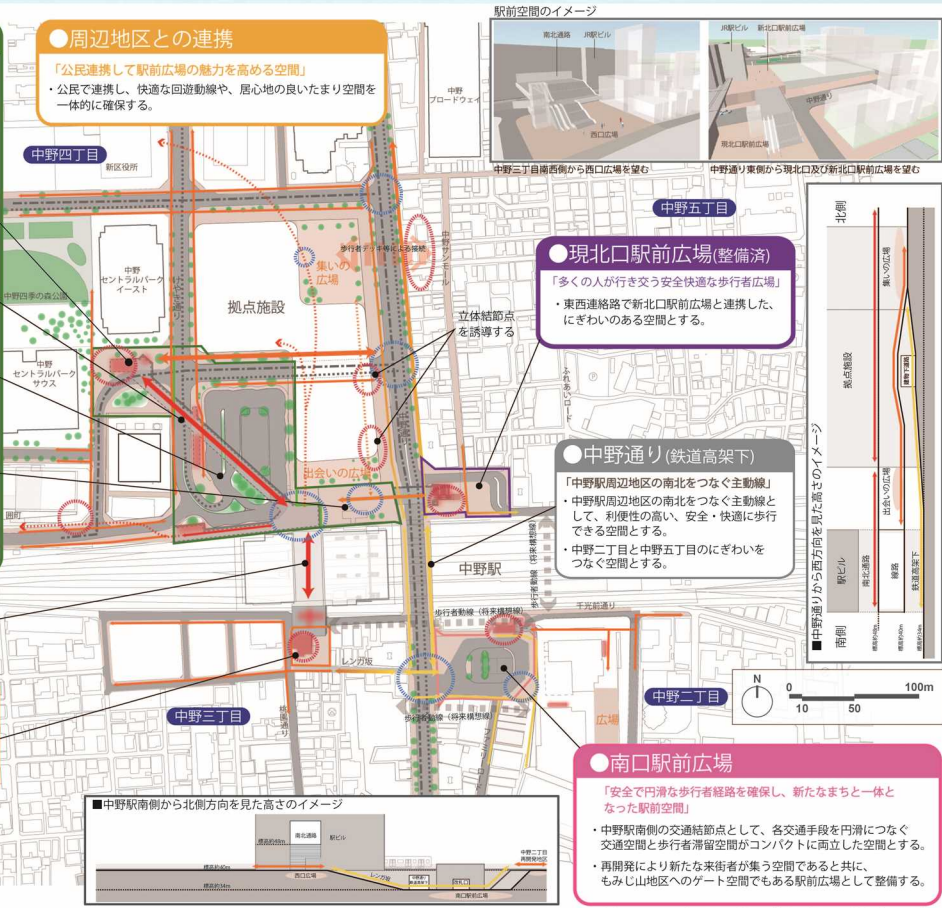
「歩行者の利便性・回遊性を高める、中野三丁目新たな駅前空間」

 - ・南北通路から中野三丁目の街区につながる空間として、歩行者の動線とたまりを意識した広場とする。
 - ・中野三丁目のまちなみとの一体感を感じられるデザインとする。
- 凡例
- 歩行者動線(標高約48m)
 - 歩行者動線(標高約40m)
 - 歩行者動線(標高約34m)
 - バス動線
 - タクシー・一般車動線
 - 動線方針
 - 昇降施設
 - 平面結節点
 - 立体結節点

- 周辺地区との連携**

「公民連携して駅前広場の魅力を高める空間」

 - ・公民で連携し、快適な回遊動線や、居心地の良いたまり空間を一体的に確保する。



- 現北口駅前広場(整備済)**

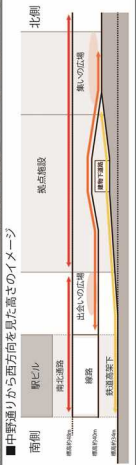
「多くが行き交う安全快適な歩行者広場」

 - ・東西連絡路で新北口駅前広場と連携した、にぎわいのある空間とする。

- 中野通り(鉄道高架下)**

「中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線」

 - ・中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線として、利便性の高い、安全・快適に歩行できる空間とする。
 - ・中野二丁目と中野五丁目のにぎわいをつなぐ空間とする。



- 南口駅前広場**

「安全で円滑な歩行者結節を確保し、新たなまちと一体となった駅前空間」

 - ・中野駅南側の交通結節点として、各交通手段を円滑につなぐ交通空間と歩行者滞留空間がコンパクトに再立した空間とする。
 - ・再開発により新たな来街者が集う空間であると共に、もみじ山地区へのゲート空間でもある駅前広場として整備する。

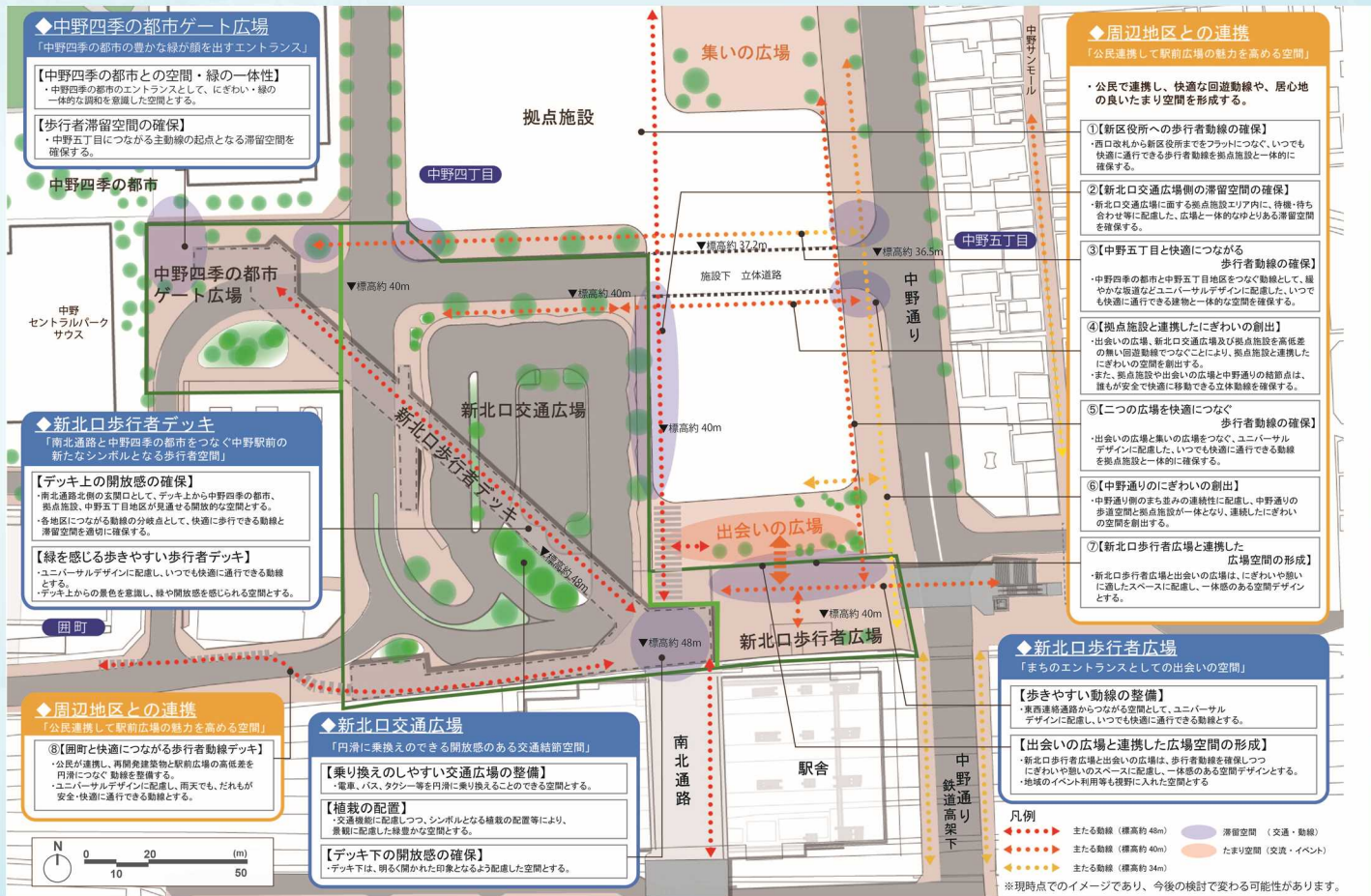
※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

新北口駅前 広場

公共側整備

+

民間との連 携整備



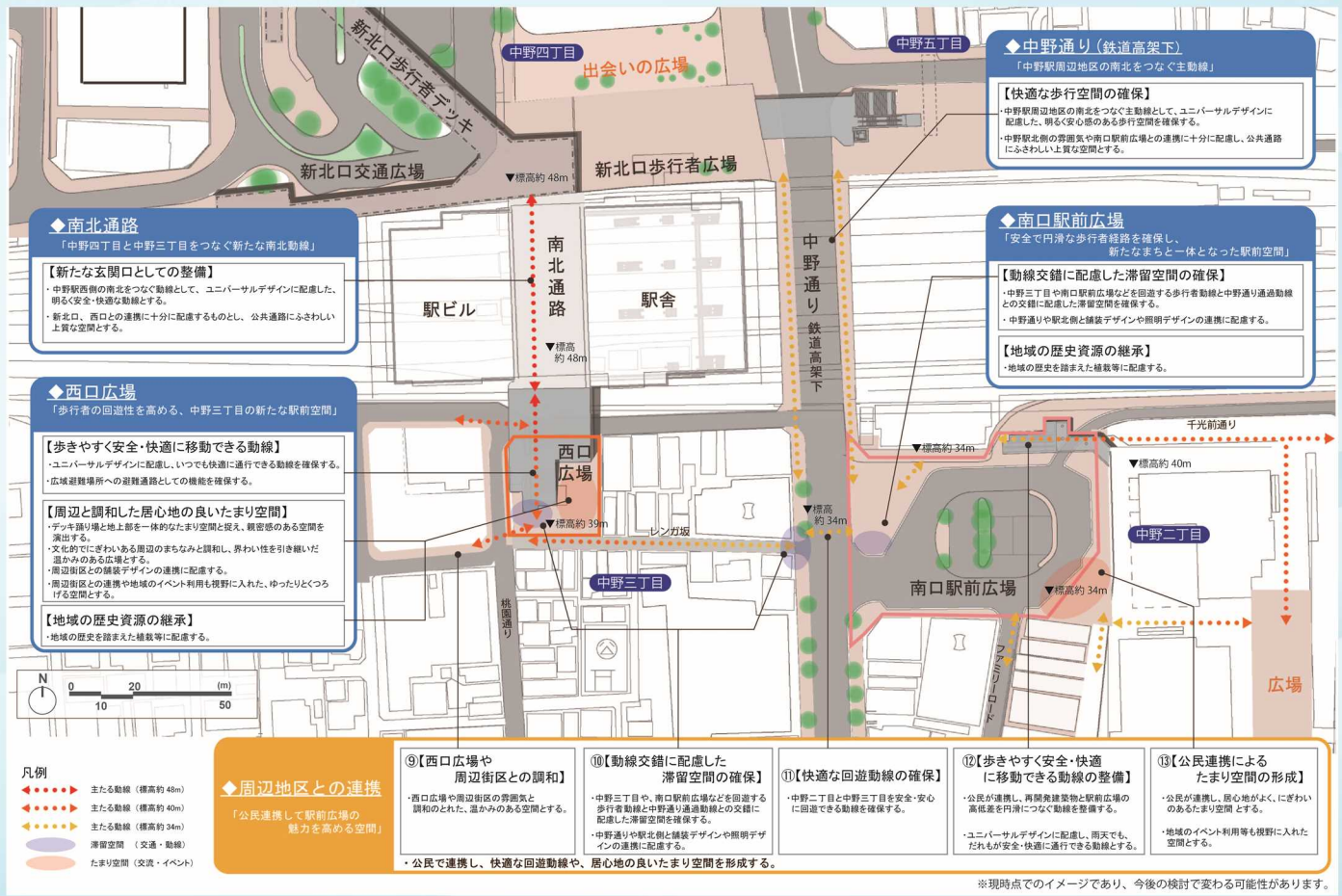
各駅前広場の整備方針(南側)

西口駅前広場、南口駅前広場

公共側整備

+

民間との連携整備



※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

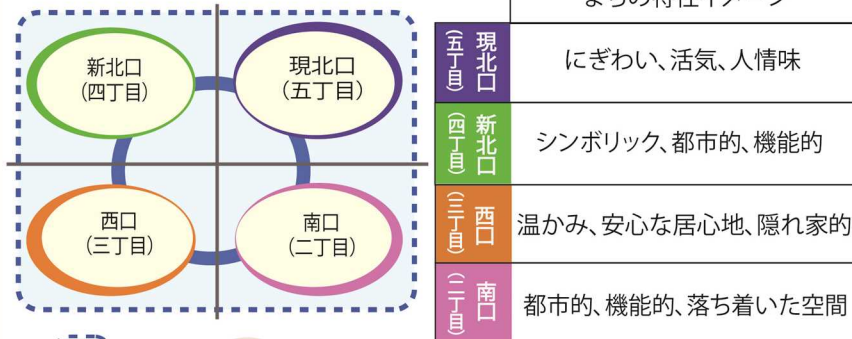
駅前広場とその周辺の空間デザイン方針

●基本方針

1. 共通デザインと特性デザイン

駅前広場とその周辺の空間は、全体の統一感を示す「共通デザイン」を基本とし、4つの「まち」をつなぎ、各まちの「特性をいかすデザイン」を取り入れ、魅力的なデザインとする。

2. 4つのまちの特性イメージ



凡例 : 共通デザイン : 特性をいかすデザイン

出典：中野駅現北口駅前広場等の整備・景観形成等の方針
(平成22年12月策定)

3. 民間施設とのデザインの統一感

周辺地区の民間施設(以下「民間施設」という。)整備に関しては、駅前広場とその周辺の統一感を保持しつつ、まちの特性をいかす効果的なデザインを誘導する。

4. 空間デザインの実現手法

施設整備にあたっては、公共管理者(区)と民間施設事業者間で整備内容について協議する場を設け、調整を行い、全体の統一感のあるデザインを実現する。

中野駅駅前広場デザイン等整備方針



現北口

※整備済み

新北口

西口

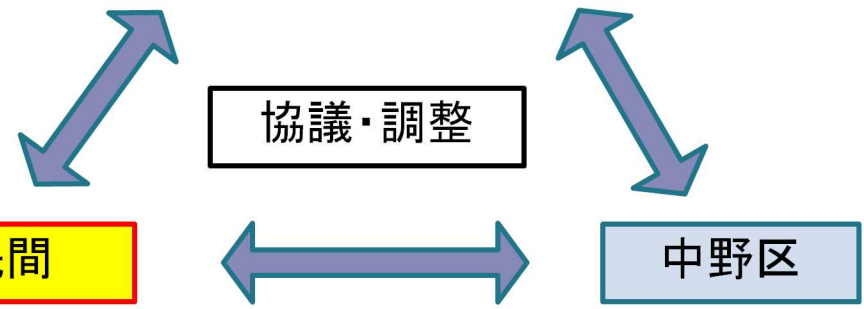
南口

各駅前広場ごとに検討

協議・調整

民間

中野区



●周辺地区との連携方針

- ・駅前広場に隣接する民間施設の整備にあたっては、本駅前広場デザイン等整備方針に配慮した計画とする。
- ・施設整備や管理主体が異なる接続部では、色彩、照明、舗装、植栽等の連続性や調和に配慮する。
- ・駅前広場と民間広場の連携に関しては、施設整備面のほか、一体的利用や活動を促す仕組みも併せて検討する。

公民連携

公共管理者(区)
駅前広場整備



各民間事業者

●空間の要素別 デザイン方針

共通デザイン
 公民に統一感あるデザイン

特性をいかすデザイン
 まちの特性を基に各要素で
 特性をいかしたデザイン

共通デザイン
 公民に統一感あるデザイン

特性をいかすデザイン
 まちの特性を基に各要素で
 特性をいかしたデザイン

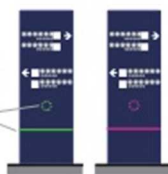
サイン

【統一感あるサインで駅周辺の回遊を促す】

- 駅周辺全体の連続性・利便性を重視し、公民連携した統一感あるサイン整備を図る。
- 利用者がまちの姿や目的地を理解しやすい、シンプルなデザインとする。
- 動線ネットワークをふまえ、ユニバーサルデザインに配慮した連続性のあるサインとする。

イメージ

共通デザインは変えずに、まちの特性は、さりげないデザインに抑える。



植栽

【まちと調和したみどりの駅前空間】

- 駅前空間と周辺のみどりの連続性や調和に配慮した植栽を行う。
- 動線上のアイストップやシンボルツリーなど、駅前の各景観を特徴づけるような植栽配置とする。

イメージ

地域の歴史・文化の継承、安らぎ・憩いの雰囲気と配慮したみどりの空間とする。



歴史・文化や周辺みどりにちなんだ植栽イメージ

色彩

【まちの「地色」となる公共空間の色彩】

- 公共施設は、まちの地色として、民間施設の自由な表現や工夫を生かすシンプルな色彩とする。
- 公共施設の色は 素材色をベースとし、極彩色のような人工的な色彩は極力避ける。
- 駅前空間のみどりが引き立つ色彩を工夫する。

イメージ

舗装などを含む公共施設空間については、まちの特性を反映した色彩を検討する。



地となる色

舗装・ストリート・フアニチャー

【まちの景観要素となるデザイン】

- 舗装は、すべりにくく管理が容易な素材等を選定し、段差等のないユニバーサルデザインに配慮した計画とする。
- ストリートフアニチャーのデザインは、先行整備施設との調和を図りつつ、みどりに馴染む シンプルで控えめなデザインを基本とする。

イメージ

舗装、ストリートフアニチャーは、地域の特性をふまえたデザインとする。



照明

【駅前とまちで創る良好な夜間景観】

- 照明の手法、色温度等は、共通の考え方を基本に、公民一体で良好な夜間景観を創出する。
- 安全・安心確保のために必要な機能照明と、にぎわい演出に有効な演出照明を空間の役割に応じて検討する。
- 環境に配慮した照明計画とする。

イメージ

公民一体で、まちの魅力を引き立てる照明とする。



公民一体で創出する夜間景観のイメージ

※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

R
2
年
度

区民意見交換会
(令和2年10月29日)

デザイン等整備方針（案）の作成
(令和2年12月頃)

デザイン等整備方針の策定
(令和3年1月頃)